

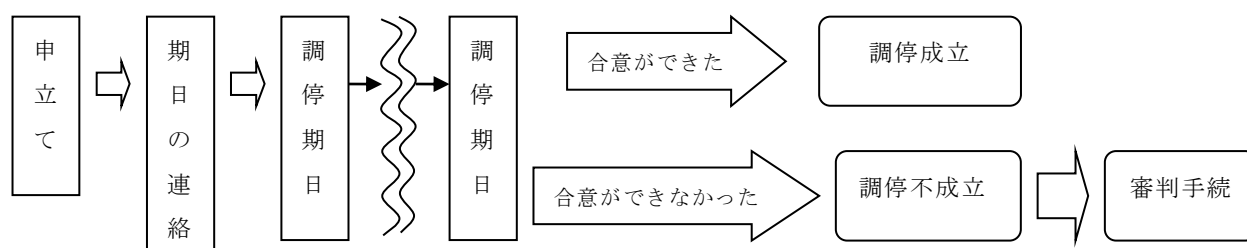
<遺産分割調停（審判）を申し立てる方へ>

1 概要

亡くなられた方（被相続人）の遺産の分け方について相続人間で話し合いがつかない場合には、家庭裁判所に遺産分割の調停（審判）を申し立てることができます。この調停では、申立人となっていない相続人全員を相手方としなければなりません。

調停手続では、調停委員会が、申立人（あなた）及び相手方（ら）から事情を聴いたり、資料を提出していただいたりして、遺産として分けるべき財産を確定し、その評価額を定めた上で、分割の割合や方法などについての希望を聴き、解決のための必要な助言を行いながら、合意を目指して話し合いを進めます。

調停手続の流れは、下図のとおりです。調停は平日に行われ、1回の時間はおおむね1時間半程度です。申立人待合室、相手方待合室でそれぞれお待ちいただいた上、交互又は同時に調停室に入ってください。調停委員が中立の立場で、双方のお話をお聴きしながら話し合いを進めていきます。



話し合いがまとまらず調停が不成立になった場合には、自動的に審判手続が開始され、裁判官が、双方からお聴きした事情や提出された資料等一切の事情を考慮して、審判をします。

審判を申し立てた場合でも、調停手続が先行することがあります。

2 申立てに必要な費用

- 収入印紙：被相続人1人につき、1200円
 - 連絡用郵便切手(100円×3枚、84円×5枚、50円×1枚、10円×10枚、1円×10枚)×当事者数
- ※どちらも裁判所で販売していないので、郵便局等で購入してください。

3 申立て時や調停進行中の提出書類等とその取扱い

(1) 申立て時の提出書類等

次の書類を必ず提出していただきます。

- 申立書 裁判所提出用1通+相手方全員の人数分
→申立書は、法律の定めにより相手方全員に送付しますので、裁判所用、相手方用（全員分）、申立人用の控えを作成してください。なお、裁判所の窓口に申立書用紙や遺産目録の記載例がありますので、ご利用ください。
- 事情説明書1通（審判の場合は、原本1通と相手方用コピー相手方人数分）
- 送達場所等届出書1通（申立人が複数の場合、申立人全員分）
- 進行に関する照会回答書1通
- 別紙【遺産分割調停に必要な添付資料（申立人用）】記載の資料

(2) 調停（審判）進行中の提出書類等

事案に応じて、随時、このほかの書類等を提出していただくことがあります。

(3) 提出方法

遺産分割調停（審判）は、当事者全員が遺産の内容等を把握した上で話し合い等を進める手続です。そのため、書類等を提出する場合は、裁判所用及び相手方用として裁判所提出分1通と相手方人数分の通数のコピー（例えば相手方5名の場合、裁判所分も入れて合計6通が必要）を提出し、調停（審判）期日にはご自身用の控えと資料の原物（オリジナル）も持参してください。

書類等の中に相手方に知られたくない情報がある場合には、「非開示の希望に関する申出書」に必要事項を記載し、その申出書の下に当該書面を付けて一体として提出していただく必要があります。この申出書を参考に、裁判官が相手方の閲覧・謄写（コピー）申請を認めるかどうか判断します。

※ この提出方法は遺産分割調停・審判での取扱いです。他の事件では取扱いが異なる場合があります。

(4) 提出された書類等の閲覧・謄写（コピー）

調停手続では、相手方から閲覧・謄写（コピー）の申請があった場合、これを許可するかどうかは裁判官が判断します。そのため、「非開示の希望に関する申出書」が提出されている場合であっても、閲覧・謄写が許可される可能性があります。

また、調停が不成立となって審判手続が開始された場合、審判のために必要な書類等については、調停手続とは違い、閲覧・謄写の申請があれば、法律の定める除外事由がない限り許可されます。これは、最初から審判を申し立てた場合も同様です。

4 申立先

調停の場合には相手方の住所地、審判の場合には相続開始地を管轄する家庭裁判所となります。ただし、調停・審判いずれについても、相手方との間で担当する家庭裁判所について合意ができおり、申立書と共に管轄合意書を提出された場合には、その家庭裁判所でも対応することができます。